

テキスト 創世記 50章15～21節

〈背景と文脈〉

ヨセフが解き明かしたように、7年の豊作のあと、7年の飢饉が来た。「飢饉は世界各地に及んだ」(41:56)。それにより「世界各地の人々も、穀物を買いにエジプトのヨセフのもとにやってくるようになった」(41:57)。その中にヤコブの息子たちもいた。ヨセフはすぐ兄たちの一行であると気づいたが、彼らはヨセフとは気づかなかった。物語がどのように展開していったかについては42～44章を参照のこと。

二度目に穀物を買うためにヨセフのもとに来た兄たちに、ヨセフは自分の身を明かした。「わたしはあなたがたがエジプトへ売った弟のヨセフです。しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。……神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です」(45:4～8)。

ヨセフのこの言葉は、ヨセフ物語のクライマックスともいうべきものである。やがてヤコブ一族はヨセフの招きによってエジプトに下ってくる。ヤコブはヨセフとの再会を果たし、その後、エジプトの地で息を引き取った。ヨセフや兄たちは、ヤコブの遺言に従い、カナンに彼を葬り、エジプトに戻ってきた。今日学ぶ箇所は、ヨセフ物語の締めくくりであり、読者は、ヨセフの言葉を通して、神が人の悪を善へと造りかえられる全能者であることを知る。

〈兄たちの恐れ (50:15～18)〉

兄たちは、父ヤコブの死により、ヨセフが、ことによると過去に彼にした悪の仕返しをするのではないかと非常に恐れた。彼らは弟ヨセフを奴隷として売ったことに対して、長い間、罪悪感を

持っていたことは明らかである(42:20～22)。ヤコブが死んでしまった今、エジプトの宰相として権力をほしいままにできるヨセフが、彼らに仕返しすることは容易である。彼らはヨセフの仕返しを非常に恐れた。それで、人を介して、父ヤコブが生前「どうか兄たちの咎と罪を赦してやってほしい」と言っていたと告げた。「これを聞いて、ヨセフは涙を流した」(17)とある。ヨセフは万感の思いでその言葉を聞いたことであろう。その後、兄たち自身もやって来て、「お願いします。どうか、あなたの父の神に仕える僕たちの咎を赦してください」と彼に懇願した。彼の夢(37:7)は、奇しくもこのように成就した。兄たちは悪意をもって、その夢の成就を阻もうとしたが(37:19～20)、全能の神の前に、それはまったく意味をなさなかった。

〈赦しの再確認と摂理の主への信仰 (50:19～21)〉

ヨセフの兄たちへの言葉(50:19～21)がヨセフ物語の結論である。彼は、自分の人生を導かれたのは神ご自身であり、神は、彼らのたくらんだ悪を善に変えられたこと、またその目的は、多くの民の命を救うためであった、と言った。

「わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です」(45:8)と、ヨセフはすでに兄たちに語ったが、その言葉を受けて、「わたしが神に代わることができましょうか」(19)と、今日の箇所で言っている。ヨセフは、測り知れない知恵をもって悪を善に変えられたのは神であり、自分は神のしもべとして、神のご計画に用いられたに過ぎないことを自覚していた。ヨセフは生涯を通して摂理の主を信じ続け、その導きに従った。それだからこそ人間的に見れば多くの不運を体験したが、その信仰は揺るがず報いられた。一見マイナスに見える環境の中でも、悪を善に変えられる摂理の主を信じ、しもべとしてなすべきことをなすことが大切である。(後藤公子)

テキスト 創世記 50章15～21節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問13

〔単元のねらい〕

神様が正義のお方ならば、どうして、世の中に悪がはびこるのか、こういった素朴な問いを持つ子どもも多いことだろう。しかし、イエス様を信じる私たちは、神様が悪を善へと変えて、御自身の栄光と私たちの救いのために役立ててくださると大胆に信仰をもって教えることができる。ヨセフ物語の学びをとおして万事を益としてくださる神様への信頼がよい子どもたちに増し加わることを願う。

「すべてのことを善としてくださる神さま」

愛する子どもたち、おはようございます。

二学期が始まりましたね。今学期も、学校で、お家で、そして、何よりも日曜日は日曜学校、教会で、神さまがヨセフさんと一緒にいてくださったように、みんなとも、いつでもどこでも一緒にいてくださって、豊かに祝福してくださいますように。

さて、神さまが全世界の救い主をお送りくださるお約束を実現なさるために絶対に必要だった、ヨセフさんに関係するいろんな出来事のお話をして来ました。先週のお話では、そのヨセフさんが、王様の夢の意味がわかったことで王様にたいそう気に入られて、総理大臣とされて、国中のすべてのことを任せられました。奴隷から総理大臣へ、日本だと、ちょっと豊臣秀吉に似ているけれども、ヨセフさんの場合は、神さまがアブラハムさんへのお約束を果たされるために、総理大臣とされたのです。ヨセフさんが総理大臣とされてからの話を少ししておきましょう。

ヨセフさんが神さまに告げられて王様に教えた通りに、七年間、豊作の年があるかと思ったら、今度は、七年間、ひどい飢饉の年が続きました。しかし、ヨセフさんのアドヴァイスの通りに食べ物をたくさん蓄えていたので、エジプトが飢饉で困ることはありませんでした。けれども、その飢饉は、ヤコブさんたちが住んでいたカナンにも広がって行きました。ヤコブさんたちは、飢饉に備えていませんでしたから、食べ物に困ってしまい

ました。それで、ヤコブさんは、末っ子のベニヤミンさん以外の息子たちを食べ物を買わせに、エジプトまでお使いに出したのです。何も知らずに、息子たちは総理大臣のところに行って、地面にひれ伏しました。こうして、ヨセフさんが昔見た夢が本当のことになりました。ヨセフさんは、お兄さんたちが来たことがわかりましたが、自分がみんなの弟のヨセフだとは言いませんでした。ヨセフさんは、お兄さんたちに末のベニヤミンさんも連れて来るように命じました。そのベニヤミンさんが来て、兄弟がみんなそろろうと、はじめて、ヨセフさんは、自分のことを明かしたのです。そして、こう言ったのです。

「わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです。しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。この二年の間、世界中に飢饉が襲っていますが、まだこれから五年間は、耕すこともなく、収穫もないでしょう。神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。神がわたしをファラオの顧問、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者としてくださったのです。……」(45:4～8)。

さらにヨセフさんは、お父さんのヤコブさん、家族、家畜全部が、エジプトの国に来て、住むように言いました。こうして、ヤコブさんの家族全員が、エジプトに移り住むことになりました。このことによって、神さまは、その昔、アブラハムさんになされた約束の一部をちゃんと果たしてくださったのです。「よく覚えておくがよい。あなたの子孫は異邦の国で寄留者となり、……」（創世記15:13）。そして、この約束は、全世界の救い主をお送りくださるお約束の一部でもありますから、全世界の救い主のお約束を守ってくださいと言うこともできます。

ヤコブさんがエジプトの国で亡くなると、お兄さんたちは、ヨセフさんを恐れるようになりました。ヤコブさんが生きている時は、ヤコブさんに免じて、自分たちが赦されていると思っていたからです。しかし、ヨセフさんは、ヤコブさんに免じてでなく、既にお兄さんたちを心から赦していたのです。そのことを、ヨセフさんは、あらためてお兄さんたちに言いました。それが今日の聖書箇所です。

「ヨセフは兄たちに言った。『恐れることはありません。わたしが神に代わることができましょうか。あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。どうか恐れなください。このわたしが、あなたたちとあなたたちの子供を養いましょう』。ヨセフはこのように、兄たちを慰め、優しく語りかけた」（50:19

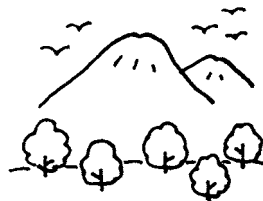
～21）。

ヨセフさんは、お兄さんたちをはじめ、たくさん人たちの命を飢饉にあって救うために、神さまがヨセフさんを先にエジプトに遣わして、奴隷から総理大臣になるようにしてくださったと確かに信じることができました。神さまは、悪さえ善へと変えてくださるお方だと、確かに信じる事ができたのです。このようなことは、お兄さんたちに野原の穴に突き落とされた昔を神さまへの信仰をもって振り返ってこそ、言えることです。

ヨセフさんは、「あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです」と言いました。神さまの救いの、より大きな歴史で言うならば、これは神さまが、お兄さんたちの悪にくみを善に変えて、多くの民の命を罪による滅びから救うための救い主をお送りになるために、今日のようにしてくださったということです。今日のところから、神さまは、すべてを善に変えられるお方でいらっしゃることを教えられます。みんなの中には、今、何で？と思っていることがたくさんあるかも知れませんね。神さまが一緒なのに、何でこんな悪が？と思っていることがあるかも知れません。しかし、神さまがヨセフさんと多くの民のために悪を善へと変えてくださったように、みんなのためにも善に変えてくださることに信頼し、期待しながら、今週も歩みましょう。（長谷川潤）

【今週の暗唱聖句】 創世記 50章20節

あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、
多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。



〈ねらい〉

人間の悪をも善に変えられる神さまの力に信頼し、神さまの善に用いられることを望むように。

〈暗唱聖句〉

「あなたがたの悪を、神は善にかえられた」。

〈展開例〉

①ヨセフの解き明かしたとおり、七年の豊作のあと、七年の大飢饉が起きました。エジプトではヨセフが総理大臣となって食べる物にこまりませんでした。他の国では食べ物がありません。ヨセフのお父さんのヤコブの家族も飢え死にしそうでした。そこでヤコブは子どもたちに言いました。「エジプトには素晴らしい総理大臣がいて、飢饉の中でも倉にはたくさんの食べ物があるそう。行って買って来ておくれ」。そうして、お兄さんたちはヨセフのいるエジプトにやってきました。

②「総理大臣さま。どうか私たちに食べ物を買ってください」。お兄さんたちはヨセフの前にひざまずいて懇願しました。その姿は、あのヨセフが最初に見た夢のとおりでした。ヨセフはお兄さんたちだと分かりましたが、お兄さんたちはそれがヨセフだとは気づきません。当然ですよ。自分たちが奴隷として打った弟が総理大臣になっているなんて、誰も思いません。ヨセフもそのときは何も言いませんでしたが、もう一度来るように計画を立てました。

③ヨセフが計画したとおり、お兄さんたちはもう一度エジプトに来ました。ヨセフは、「お兄さんたち、私はあなたがたがエジプトに売ったヨセフですよ」と言って、自分の正体を明かしました。お兄さんたちはびっくりすると同時に、とても怖くなりました。だって、ヨセフにあんなひどいことをしたのですから。「ごめんなさい。私たちがあなたにしたことを赦してくれ」。お兄さんたちはヨセフを恐れました。

④でも、ヨセフは言いました。「恐れなくてください。私をエジプトに送ったのは、あなたたちではなく、神さまで。あなたたちは確かに悪いことをしましたが、神さまは多くの人の命を救うために、そのことも用いられました。私は怒っていません。どうかヤコブお父さんもエジプトに来て、一緒に住みましょう」。ヨセフは優しく語りかけました。

⑤兄たちはヨセフの言うまをお父さんに告げました。ヤコブも涙を流してヨセフが生きていることを喜び、家族そろってエジプトにくだってヨセフのそばで暮らしました。

〈お祈り〉

人間の悪いわざも、善いことに変えてくださるすばらしい神さま。どうか神さまの善いことのために私を遣わしてください。アーメン。



〈ねらい〉

神様への信頼を深める。

〈はじめに〉

夏休みの間のご奉仕も感謝いたします。新しい学期を迎え、子どもたちは生き生きとしているでしょうか。教師自身の状態はいかがでしょう。子どもたちの前に立たされるとき、自分自身の信仰生活がいつも問われます。教えるということの前に、自分自身が御言葉に養われ、主の導きを祈らなければなりません。学生の方で奉仕をしてくださる方、お仕事で毎日忙しく帰りも遅い中、このクラスの準備をしてくださる方、主婦の方、このクラスを担当してもう何年にもなられる方、いろいろな方が幼い子どもたちに仕えておられると思います。お一人おひとりのご奉仕が整えられ、心身の健康が支えられますように。

〈御言葉に聴きましょう〉

- ①ヨセフのお父さんヤコブは死ぬ前に、何と書いていましたか。
- ②これを聞いたヨセフはどうしましたか。
- ③ヨセフはお兄さんたちを怒りましたか。
- ④20節を声に出して読みましょう。

〈展開例〉

ヨセフさんは、神様から特別な力をいただいて、王様ファラオの夢の意味を知ることが出来ました。夢の意味を教えられた王様はヨセフをとても信頼して、総理大臣のお仕事を任せました。その

後、ヨセフさんはどうなったでしょうか。

ヨセフさんには昔、悲しい出来事がありましたね。それは、兄弟から捨てられるという出来事です。どんなに王様から大事にされても、どんなに大きなお仕事をしてみんなからほめられても、きっと心の奥でいつもお父さんは元気かな、お兄さんや弟は今頃何しているかな、どうして私はこんなことを経験したのかなと思いをめぐらし、時には悲しみに胸がいっぱいになった時もあったでしょう。でもヨセフさんは一生懸命、国のため国民のために働きました。王様の見た夢はヨセフさんが言ったとおりになりました。ヨセフさんのお陰で国民は助かりました。

遠くに住んでいるお兄さんたちの生活も助けました。これを指導している総理大臣が自分たちのあの捨てたヨセフとは誰も知りません。随分時間がたってから、ヨセフは兄弟にもお父さんにも再会することができました。何十年も待ちに待った再会でした。でもお兄さんたちは手放しでは喜べません。なぜなら、あの時自分たちがしてしまった悪いこと、ヨセフを憎み捨てて、お父さんにもうそをついたことをずっと忘れないでいたからです。きっとヨセフは赦してくれない、それほど悪いことをしてしまったことの後悔と恐れがありました。でも、ヨセフは、お兄さんたちを赦しました。全てを神様はご存知で、悪いことも、善いことに変えてくださる神様を、その神様のお力をますます信じる思いが強く与えられたからです。

もう一度20節をみんなで声を合わせて読みましょう。

〈お祈り〉

神様、神様の大きな愛をありがとうございます。



〈ねらい①〉

前回と同じように、思いを超えた、神の救いの物語のスケールの大きさに、共に驚く。

〈展開例①〉

聖書の中でも飛びぬけて面白いテキストですから、聖書物語を丁寧に確認するだけで十分に意義深いと思います。礼拝における説教者が、時間の都合で十分に語れないような場合に、分級でフォローなさればいいと思います。その際は、説教展開例を参考になさってください。紙芝居や絵本も充実していると思います。

〈ねらい②〉

悪を善に変えられる摂理の主を信じる、信仰者の「最高の幸い（カルヴァン）」を伝える。

〈展開例②〉

「神の全能の力、窮めがたい知恵、無限の善は、その摂理の中によく現れ、最初の墮落やその他すべての御使いと人間たちの一切の罪にまでおよんでおり、しかも単なる許容によるものではなくて、多様な配剤において、神ご自身のきよい目的のための、最も賢い力ある制限や、その他の秩序づけと統治がそれに伴っている。しかもなおその場合の罪性はただ被造物からだけ出て、神から出るのではない。最もきよく正しくいます神は、罪の作者でも是認者でもないし、またありえない」（ウ信仰告白5:4）。

「一切は混乱し混沌と化したように見られても、その時に天上は常に静穏で晴れ晴れとしている。それゆえ、世界の物事が混乱して我々の判断が奪われる時にも、神は義と知恵の純粹の光によってこの激動を最も良く整えられた秩序に收拾し、正しき目的に至らせたもうと確信すべきである」（カルヴァン『綱要』第1篇17:1）。

人間には、神様の考えておられることのすべては分かりません。どうしてこんなことが起こるのか？と言いたくなる様な出来事がしばしば起こります。「どうしてアダムとエバは墮落したのか？」誰もが聞きたい問ですね。「神様は人間を命令だけに従うロボットとして創られなかった、自由な存在に創ってくださった。でも人間はその自由を間違って使って、墮落の道を選んでしまった」。これは聖書から導き出される模範解答です。でもこれを聞いても、先生は全然納得できません。みんなはどうか？

「どうして？ なぜ神様はこんなことを……」という問いは、人間が永遠に問い続けるものでしょう。でも、神様の考えておられることをすべて知りたいと願うのは傲慢なことですし、そんなこと不可能です。また必要ありません。むしろ大切なことは、どんな出来事が起ころうとも、それはすべて神様の「全能の力、窮めがたい知恵、無限の善」によって定められたものであって、すべては「きよい目的」の実現のために用いられると“信じる”ことです。

神様は、人間の犯したどんな反逆も過ちも悪も、また私たちが味わわねばならないあらゆる悲惨な出来事も、すべてを善に変えて用いてくださる方です。イエス様を十字架にかけてしまったのは人間の最大の罪ですが、神様はその罪さえも用いて、私たちの救いを実現してくださった方です（使徒2:23～24、4:27～28）。大いなる神の御手に人生を委ねて、平安の中であゆみましょう。

〈祈り〉

神様、万事を益としてくださるあなたを信じます。どんな混乱の時も、あなたを見上げ、確かな平安の中で歩むことができますように、私たちの信仰を整えてください。



〈ねらい〉

人の悪を善に変えられる神様の業を覚える。

〈展開例〉

- ①今日で壮大なヨセフ物語が幕となる。これまで激動の人生を歩んできたヨセフだったが、この物語の最後は、自分に向けられた悪が、神の救いのために用いられ、善へと変えられたというヨセフの告白で締めくくられる。

Q. ヨセフの周りにあった悪とはいったい何だったろうか？ 父親の偏った愛。兄たちの嫉妬。兄たちの殺意。女性からの誘惑。自分を利用するだけ利用して恩を忘れる薄情さ。そして、エジプトという異教の国の存在。神様はアブラハムの子孫たちに、祝福を約束した契約を実現し、イスラエル族を飢饉から守られたために、こうした悪を用いられた。そして、ついには神様が善しくイスラエルをとおして世界を祝福される方であることがはっきりと示された。

- ②以前も話したが、これは悪でもOKということではない。悪を働いた者はそれぞれに責任を負う。父は最愛の息子を失い、兄たちには罪の呵責が与えられ、他の神々を捨てなかった大国エジプトも、やがて神様の裁きのもとに滅びることとなる。しかし、神様はそのような悪であっても自由を奪うことなくそれぞれの責任のもとで世界を任せられる。そして、人の自由さすらも計画の中に入れた上で、御自分の思い、アブラハムの子孫を祝福し、地上の民を祝福するという思いを実現させられる。

- ③ヨセフはすべてが成し遂げられたとき、自分がこれまで味わってきた人の悪意をゆるすことができた。それは、神様の目線で自分の生涯を見

ることができたから。自分には辛く、悲しく、寂しく、苦しい人の悪意だったが、神様の実現のためにそれらは起こるべくして起きたとヨセフは理解した。そして神様が起こした救いを知った今、それらの悪は最早、過去の出来事であり、赦すべき人の弱さへと変わったのである。

- ④摂理信仰とはまさに、神様の眺めておられる壮大で愛情に満ちた目線に立って、すべてを見つめるということである。神様の眼差しを意識して世界を見つめるとき、また毎日の生活を見つめるとき、人の悪を嫌いながらも、人そのものを大切にされる神様の寛容さに触れることができる。悪ですら御自分の御業のために使われる神様に従うとき、私たちは自分の身の回りに起きる悪であっても寛容となれる。ヨセフが「悪が善へと変えられた」と言うとき、それはテレビ越しに感じる世界の悪とかネットで気になる人間の悪さとかそういう頭の中の話をしているのではない。自分を苦しみ、自分を陥れたそのリアルな悪に対して、彼はそれを赦し、感謝することすらできたのである。皆の日常にも降りかかる人の悪意があるかもしれない。しかし、その悪ですら、神様ならばやがて善へと変えてくださると信じることができならば、君は悪に対して傷つく人生から、悪のある世界を受け入れつつ、それが善へと変わることに希望を持つ、ワンランク上の人生観を与えられる。悪を善に変える神様の御業が自分の人生にも豊かにしめされるように、祈り求めたい。

〈祈り〉

人を祝福するために悪を善へと変えられる神様。感謝します。私にも、私の周りにも多くの悪がありますが、あなたが整えて善へと変えてください。アーメン。

